

前回の「子宮がん部会」の議論について

□報告事項

(1) 子宮がん検診の現状

- ・罹患率について、CINを含む場合は、全国より多いが、浸潤がんのみは少ない。
- ・県全体で、20%超が検診で発見されている。益田医療圏は限局の割合が少ない。
- ・益田圏域において、5年相対生存率が県全体と比較して有意に低い。

(2) がん検診精密検査実施機関登録事業実施状況

- ・コルポに関する研修の機会少ない。県でも定期的に教育する機会を設けられると良い。

(3) 子宮頸がん検診精度管理事業

- ・要精検率・受診前のがん罹患率割合について。ASC US以上の要精検率は3.5%。受診前のがん罹患率割合は、CIN3 0.65%、がん 0.03%。
- ・ほとんどがん疑いから出ている。感度 98.1%、特異度 97.3%。感度は他自治体と遜色ないが、特異度は若干低め。
→松江市の「がん疑い」が「がん」に計上されていることが判明。
正しくは、感度 95.5%、特異度 96.8%（雑賀先生提供資料より）

□協議事項

(1) 国のマイナポータル事業について

- ・「ASC-US/HPV(-)」であった者について、マイナポータルへの入力と個別の結果通知での判定結果が異なるため、受診者に分かるように結果通知をするよう関係機関へ通知する。